

## オープン市場短信 (2020年11月)

2020.11.10

### ◆ 10月のCP市場動向

10月末のCP市場残高は、期末要因が剥落し期明けの発行再開により23兆9,147億円と前月比増加(+1兆3,334億円)し、前年同月比では44カ月連続の増加(+4兆1,041億円)となった。発行市場は、コロナ禍の予防的資金ニーズがやや落ち着いたことで、新規発行は伸び悩みとなり、月中の残高推移は23兆円台半ばから24兆円前後にとどまった。業態別残高では、一般事業法人が9兆7,628億円(前月比+7,840億円) その他金融10兆313億円(同+6,356億円)と増加した。一方、金融機関2兆5,222億円(同△136億円)、ABC P1兆5,984億円(同△726億円)とそれぞれ減少した。発行レートは、コロナオペ目的の引受もあってディーラーの購入ニーズが強く、多くの銘柄でマイナス圏内での出会いとなった。

### 【新発3M物の発行レート】

最上位銘柄(a-1+格) 0.000%割れ 一般事業法人(a-1格) 0.000%割れ～0.000% その他金融銘柄(a-1格) 0.000%割れ～0.090%

### 【業態別残高内訳】

(単位：億円)

業 態	10月末残高	9月末残高	増 減
一般事業法人	97,628	89,788	7,840
その他金融	100,313	93,957	6,356
金融機関	25,222	25,358	-136
政府系金融	0	0	0
銀行等	5,799	4,455	1,344
証券	19,423	20,903	-1,480
ABC P	15,984	16,710	-726
計	239,147	225,813	13,334

(注：買入消却分含む)

## 【格付け別の発行レート】

格 付	1か月	2か月	3か月
a-1+ (一般事業法人)	-0.027% ~ 0.000%	-0.036% ~ 9.000%	-0.037% ~ 0.000%
a-1 (一般事業法人)	—— ~ ——	0.000% ~ 0.000%	-0.001% ~ ——
a-1+ (リース銘柄)	-0.038% ~ 0.082%	-0.030% ~ 0.000%	-0.038% ~ 0.009%
a-1 (リース銘柄)	—— ~ ——	-0.001% ~ ——	-0.020% ~ 0.090%
a-2	-0.016% ~ ケ0.50%	0.049% ~ ケ0.75%	0.042% ~ ケ1.00%

### 《CPオペ》

CP等買入オペは、前月よりも減少し2回（合計：1兆2,000億円）となった。新規発行の伸び悩みもあって、13日のオペでは按分レート $\Delta$ 0.038%と前回（ $\Delta$ 0.034%）比低下した。しかしながら、25日のオペは保有玉の入替や残存期間の短い玉の売却ニーズが影響もあり、按分レートは $\Delta$ 0.033%に上昇した。

〈月末オペ残高：4兆4,851億円〉

## 【日銀CP等買入れオペ実績】

(単位：億円)

実施日	実行日	オファー金額	応札額	落札額	按分・全取	平均落札	按分比率
10月13日	10月15日	6,000	9,384	5,999	-0.038%	-0.021%	35.8%
10月27日	10月29日	6,000	10,604	5,990	-0.033%	-0.025%	4.1%

### 《ABC P》

ABC Pは、期末要因から1兆6,710億円と前月比+2,980億円増加し、前年同月比では+3,499億円の増加となった。

### 《短期社債登録状況》

証券保管振替機構によると、10月末時点における発行登録企業数は、3社増1社減で、533社となった。

新規登録：関西ペイント、NTT・TCリース、ワイジェイカード。

登録抹消：日本土地建物。

### 《CP現先市場》

現先(S/N)レートは運用ニーズ変わらず、マイナス~0%近辺での出会いであった。

## ◆ 11月のCP市場動向

11月のCP発行市場は、例年では月後半に企業の賞与資金手当てや税払い等の資金需要が強まり新規発行案件は増加するが、今年はコロナ禍の予防的な資金調達によって、多くの企業が資金余剰となっている。その結果、大幅な増加とはならず、発行残高は月中24兆円台前半で推移し、月末残高は25兆円前後を予想する。発行レートは、CP等買入オペや新型コロナ金融支援オペの保有玉確保の為、ディーラーの引受ニーズが強くなり多くの銘柄でマイナスレートでの出合いが予想される。

### 《CPオペ》

CP等買入オペは、10日・25日のそれぞれ6,000億円のオファー予定で合計1兆2,000億円となっている。現在、コロナ禍での予防的な資金調達が後退し、発行は減少となり、玉不足もあってディーラーの売却ニーズはやや消極的となっている。一方、ショートターム物の売却ニーズもあり、オペレートは10日では前回比低下し25日では横ばい推移を予想する。

### 《CP現先市場》

CP現先レートは、変わらず0%近辺での出合いを予想する。

\* 参考資料 (出所：証券保管振替機構)

【10月末発行残高 上位10社】

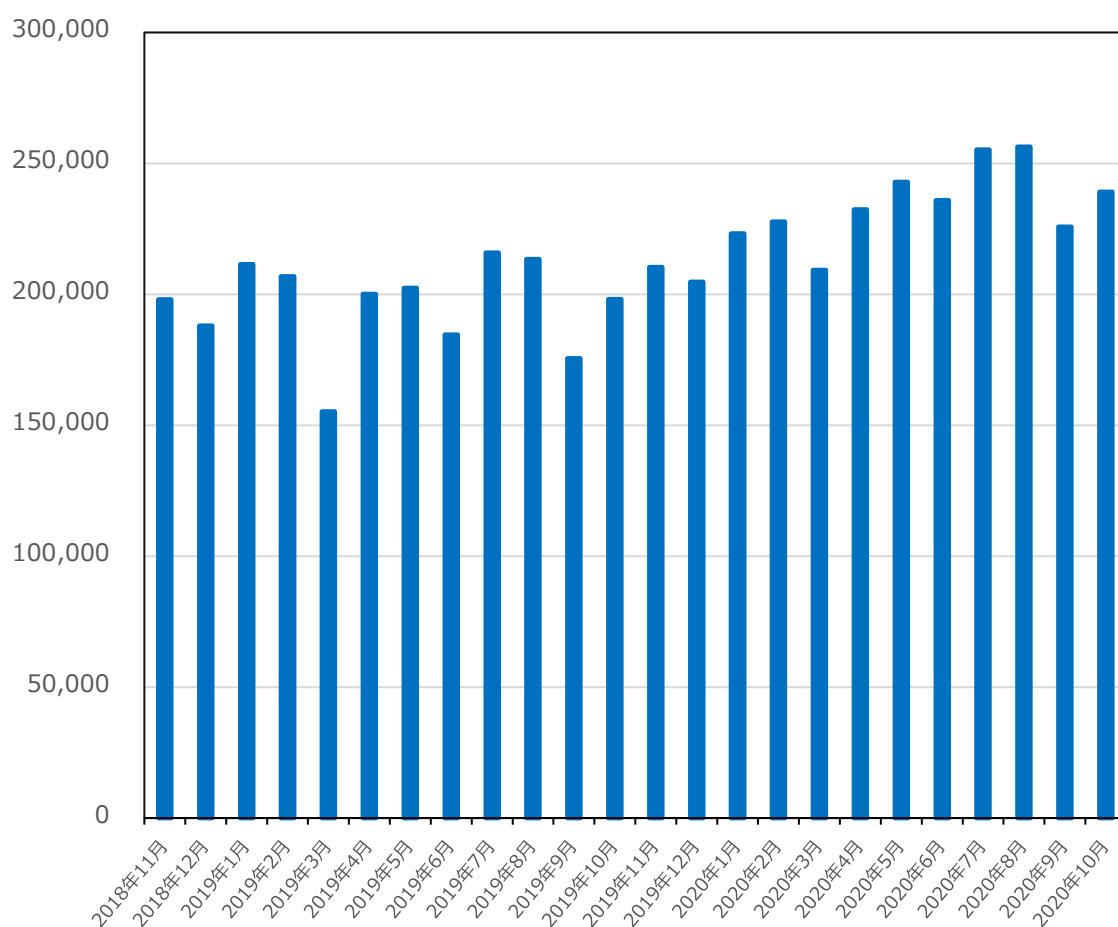
(単位：億円)

	発行企業名	10月末残高	9月末残高
1	NTTファイナンス株式会社	10,810	8,660
2	三菱商事株式会社	9,569	2,850
3	三井住友ファイナンス&リース株式会社	9,379	9,409
4	コンチェルト・レシーバブルズ・コーポレーション	6,412	6,459
5	三菱重工業株式会社	6,390	5,410
6	みずほリース株式会社	6,000	5,880
7	東京センチュリー株式会社	4,999	4,493
8	株式会社クレディセゾン	4,960	4,790
9	株式会社ジャックス	4,715	4,695
10	三菱UFJリース株式会社	4,660	4,670

【短期社債市場残高】

(2018年11月～2020年10月)

(単位：億円)



---

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。

上田八木短資株式会社

登録金融機関 近畿財務局長（登金）第 243 号

大阪本社 〒 541-0043 大阪府大阪市中央区高麗橋 2 丁目 4 番 2 号

東京本社 〒 103-0022 東京都中央区日本橋室町 1 丁目 2 番 3 号

加入協会 日本証券業協会